

# 平成26年度 全国学力・学習状況調査

## 大仙市分析結果

# I 実施の状況

- 1 実施目的 児童生徒の学力維持向上及び学習状況の把握
- 2 実施学年 小学校6年生、中学校3年生
- 3 実施教科 国語、算数・数学
- 4 調査内容
  - ①教科に関する調査（国語、算数・数学）
    - A：「知識」など基礎学力に関する問題
    - B：思考力など「活用」に関する問題
  - ②生活習慣や学習環境に関する質問紙調査
    - ・児童生徒に対する調査
    - ・学校に対する調査
- 5 実施期日 平成26年4月22日（火）
- 6 調査方式 悉皆調査
- 7 調査対象

全国（国公立小学校）	20,510校	（実施率99.2%…1,093,806人）
秋田県公立小学校	223校	（実施率98.7%………7,838人）
全国（国公立中学校）	10,649校	（実施率95.5%…1,060,010人）
秋田県公立中学校	124校	（実施率100%………8,487人）

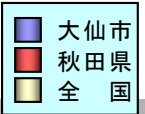
# Ⅱ 教科に関する調査結果

## 1 概要

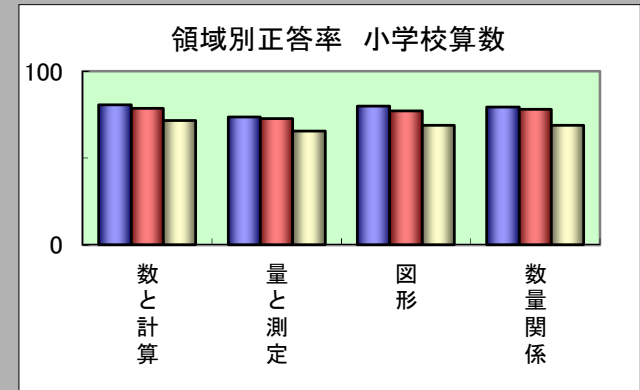
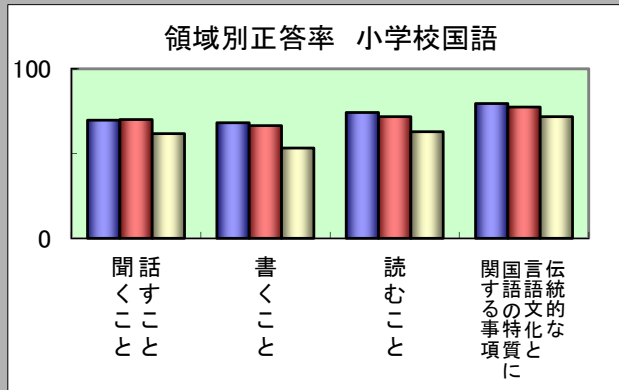
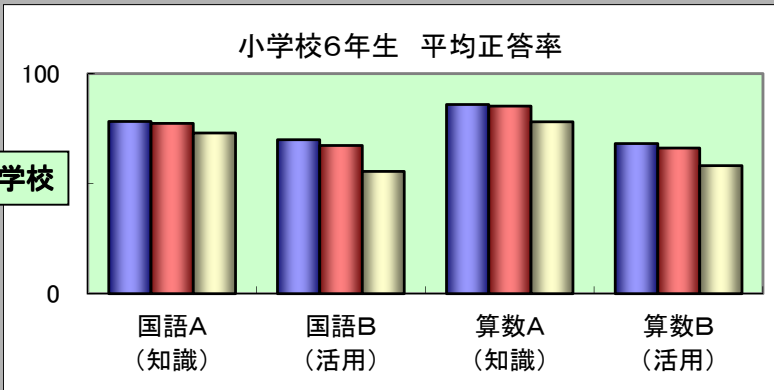
- 小学校・中学校共に、全ての教科において全国及び本県の平均正答率を上回っており、良好な状況にある。
- 小学校・中学校共に活用に関わるB問題において、全国及び本県の正答率を上回っていることから、各学校における組織的な研究体制のもと、小・中連携による9年間を見通した指導により、児童生徒の主体的な学習が進められ、思考力、判断力、表現力等が育成されてきた成果であると捉えている。

## 2 結果

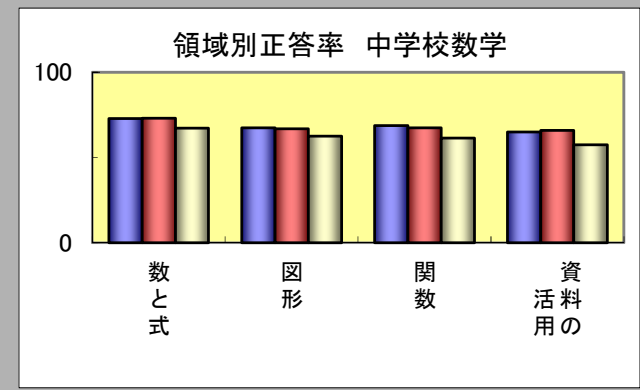
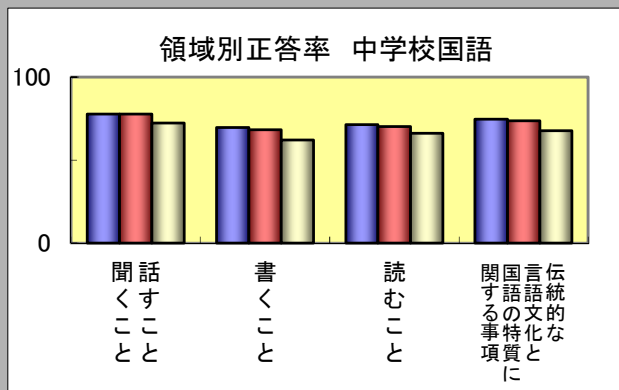
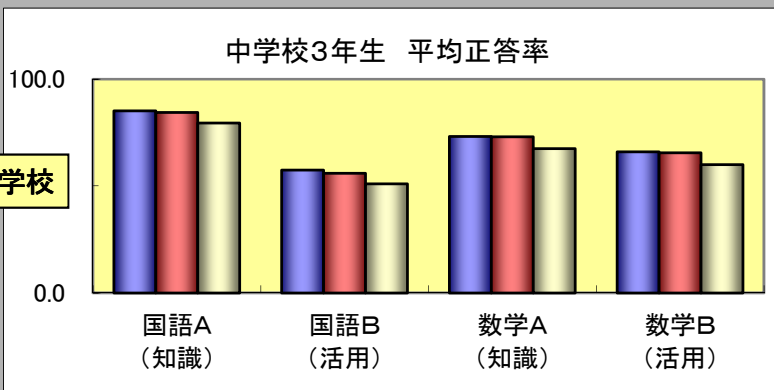
【資料1】教科別・領域別平均正答率の状況



小学校



中学校



# Ⅲ 教科に関する調査結果の考察

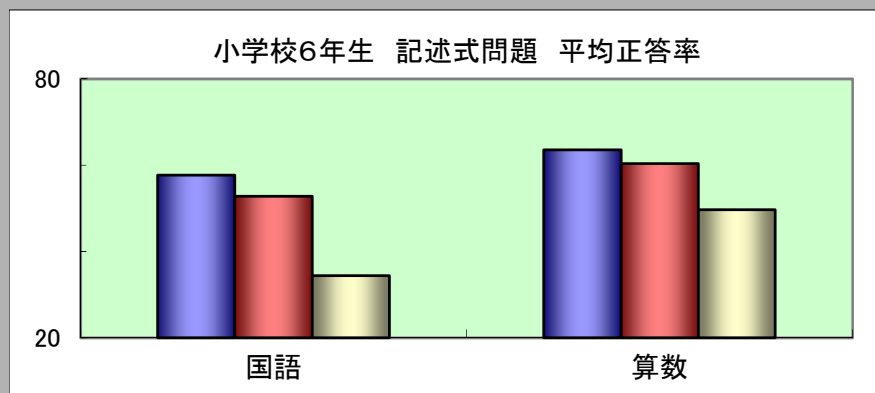
## 1 傾向

◎学力向上の基盤となる基本的な学習習慣が定着し、児童生徒は最後まで問題に粘り強く取り組んでいる。

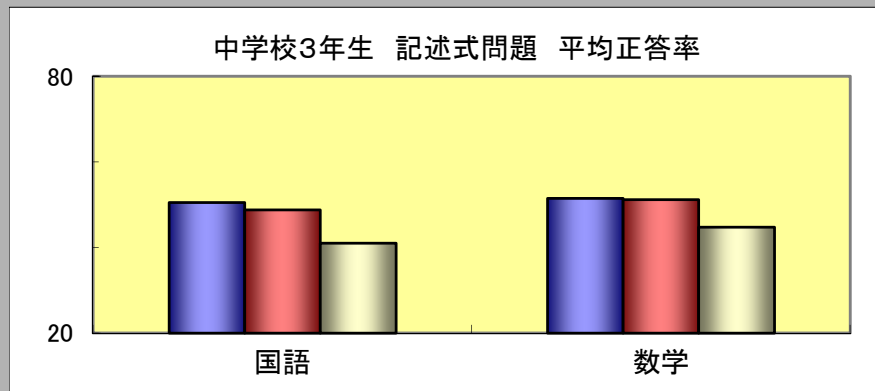
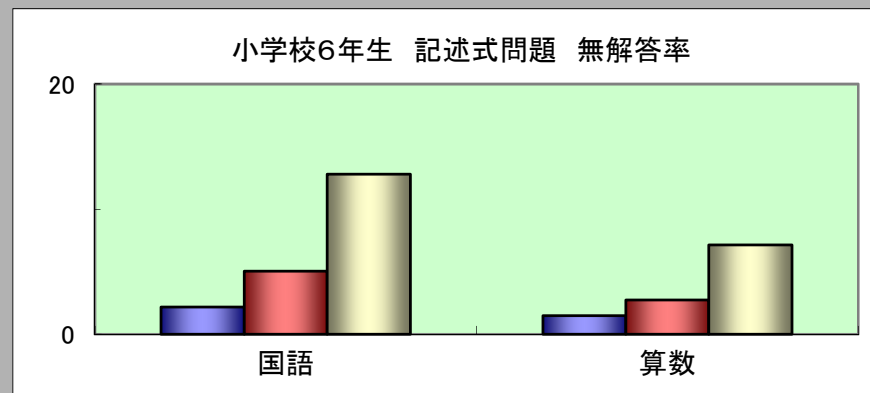
○小学校・中学校共に、全教科の記述式問題でも平均正答率が高く、全国や本県を上回っている。また、無回答率も低く、全国や本県を下回っている。

○正答数の分布から、学力調査結果がよくなかった児童生徒の割合が相対的に少ないことがうかがえる。

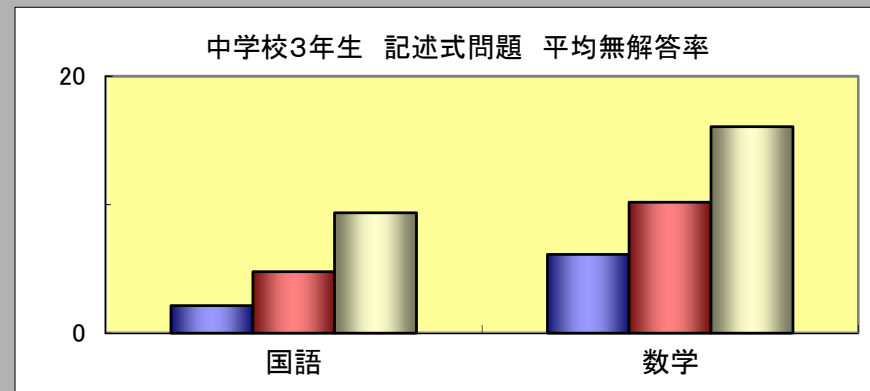
【資料2】 記述式問題 平均正答率・無解答率の状況



小学校



中学校



# Ⅲ 教科に関する調査結果の考察

## 2 要因

### ① 児童生徒が学習に集中し、落ち着いてじっくり考えることができる環境が構築されている。

- 各学校では 基本的な学習習慣の確立と、失敗が許される温かな人間関係づくりが進められている。
- 授業の中で、考えや意見を書いたり、発表したりするなどの機会と場を積極的に取り入れている。

### ② 児童生徒に基礎的・基本的な事項の習得が図られている。

- 復習を中心とした家庭学習の充実と継続が図られ、学校では基礎テストや放課後・長期休業等を活用した補充的学習を実施している。
- 学校の授業では、ティームティーチングや少人数指導など、児童生徒の実態に応じた指導形態の工夫が効果的に行われている。

### ③ 児童生徒に活用する力を育成する授業改善が進められている。

- 考えを発表する機会や話し合う活動を取り入れた児童生徒主体の授業や、目的に応じて文を読んだり、根拠をもとに説明したりするなど、思考力、判断力、表現力等の育成につながる授業が積極的に進められている。

### ④ 各教科において創意工夫を生かした特色ある教育活動が展開されている。

- 小学校における一部教科担任制の活用や小・中連携による9年間を見通した指導、幼保・小・中・高・大など異校種間の連携・交流などにより、学習活動が充実し、学びの円滑な接続が図られている。
- 教育専門監の活用による魅力ある授業、地域人材等の活用による専門的な学習活動が行われている。

### ⑤ 県や市が各学校の取組を支援する施策を推進している。

- 文部科学省研究指定事業や県の少人数学習推進事業、教育専門監制度、学力向上推進班による単元評価問題など、国や県の施策を本市の学校は積極的に活用している。
- 学校支援地域本部事業などにおいて、地域の人材やボランティア等との連携を推進している。
- 各校のPTA及び市PTA連合会等を通じて、学力向上に向けた取組について保護者の理解・啓発を図っている。
- 市独自の施策を推進している。
  - ・心ふれあうさわやか大仙事業「中（小）学生サミット」（あいさつ、環境問題、被災地支援・交流、いじめ撲滅等）の実施
  - ・体験的学習の時間支援事業実施
  - ・学校生活支援員、日本語指導支援員等の配置
  - ・学力向上推進委員会の開催（学力調査結果分析、改善の視点提示、フォローアップシート作成）
  - ・市教職員研究集会、職務別等研修会の開催
  - ・学校訪問の実施（教育委員等による訪問、教育長等による訪問、指導主事訪問 など）
  - ・秋田大学、国際教養大学、県立高等学校等との交流・連携



# Ⅲ 教科に関する調査結果の考察

## 【小学校算数A 2 (2)】

全国平均正答率 54.1%  
県平均正答率 66.0%

○割合が1より小さい場合の比較量の求め方を理解している。

## 【小学校算数B 5 (2)】

全国平均正答率 46.1%  
県平均正答率 51.2%

○示された情報を解釈して適切な図を選択できる。

## 課題が見られた問題例 (算数・数学)

## 【中学校数学A 10 (4)】

全国平均正答率 45.7%  
県平均正答率 51.6%

○反比例についてグラフと表を関連付けて理解している。

## 【中学校数学B 5 (2)】

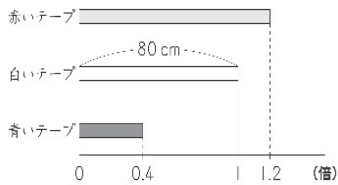
全国平均正答率 32.1%  
県平均正答率 37.3%

○判断の理由を説明することができる。

2

(2) まことさんは、使いやすいはしの長さのめやすについて発表します。

下の図のように、白いテープの長さをもとにして、赤いテープと青いテープの長さを表しました。



使いやすいはしの長さのめやす

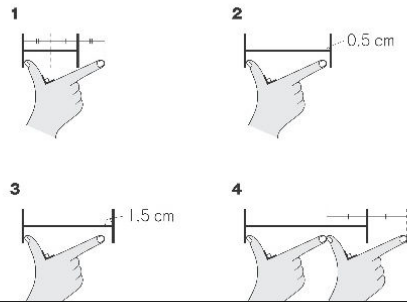
使いやすいはしの長さのめやすは、「一あたり」と言われています。

一あたりは、親指と人差し指を直角に広げたときのそれぞれの指先の結んだ長さです。

一あたり半は、一あたりを1.5倍した長さです。



下の1から4までの中から、一あたり半の長さを表しているもの( )を1つ選んで、その番号を書きましょう。



## =算数・数学の課題と改善に向けて=

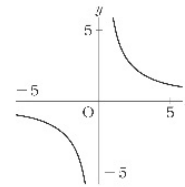
### ■H26年度の調査結果に基づく主な課題

- ・場面から数量の関係を捉え、乗法を適切に用いること。(小)
- ・小数倍の意味を、図と関連付けて理解すること。(小)
- ・反比例の意味を、負の数にまで拡張した範囲で理解すること。(中)
- ・具体的な事象を解釈し、数学的な表現で説明すること。(中)

### □主な改善策

- ・授業の中で、作業的・体験的活動を充実させるとともに、日常の場面と結び付けた指導の工夫を図り、子ども同士で数学的な表現を用いて考えを伝え合うなどの活動を取り入れたい。

(4) 次の図の曲線は、反比例のグラフを表しています。このグラフについて、 $x$ と $y$ の関係を示した表が、下のアからエまでの中にあります。正しいものを1つ選びなさい。



ア

$x$	...	3	2	1	0	1	2	3	...
$y$	...	-2	-3	-6	X	6	3	2	...

イ

$x$	...	-3	-2	-1	0	1	2	3	...
$y$	...	2	4	6	X	6	4	2	...

ウ

$x$	...	-3	-2	-1	0	1	2	3	...
$y$	...	1.5	3	6	X	6	3	1.5	...

エ

$x$	...	-3	-2	-1	0	1	2	3	...
$y$	...	2	3	6	X	-6	-3	-2	...

5 昔のアメリカに、棒を投げて得点を競う「スティックゲーム」と呼ばれる、子供の遊びがありました。

スティックゲームの遊び方

- ① 4本の棒を準備し、それぞれの片面にいろいろな模様をかき、その面を表とする。
- ② 4本の棒を同時に投げ、表と裏の出方に応じて、右のように得点を決める。
- ③ あらかじめ決めておいた回数だけ②を行い、得点の合計の高い方を勝ちとする。

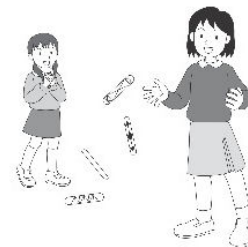
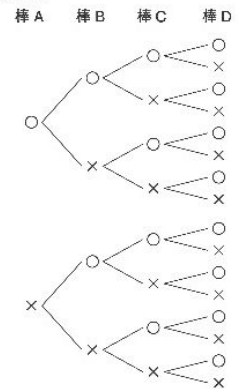


4本表, 0本裏	...	5点
3本表, 1本裏	...	2点
2本表, 2本裏	...	1点
1本表, 3本裏	...	2点
0本表, 4本裏	...	5点

優菜さんと桃花さんは、このスティックゲームに興味をもち、4本の棒を1回投げるときの各得点のとりやすさについて考えることにしました。

右の樹形図は、このときの表と裏の出方について、4本の棒をA、B、C、D、それぞれの棒の表を○、裏を×として、すべての場合を表したものです。

樹形図



# IV 学習環境に関する調査の結果

## 1 概要

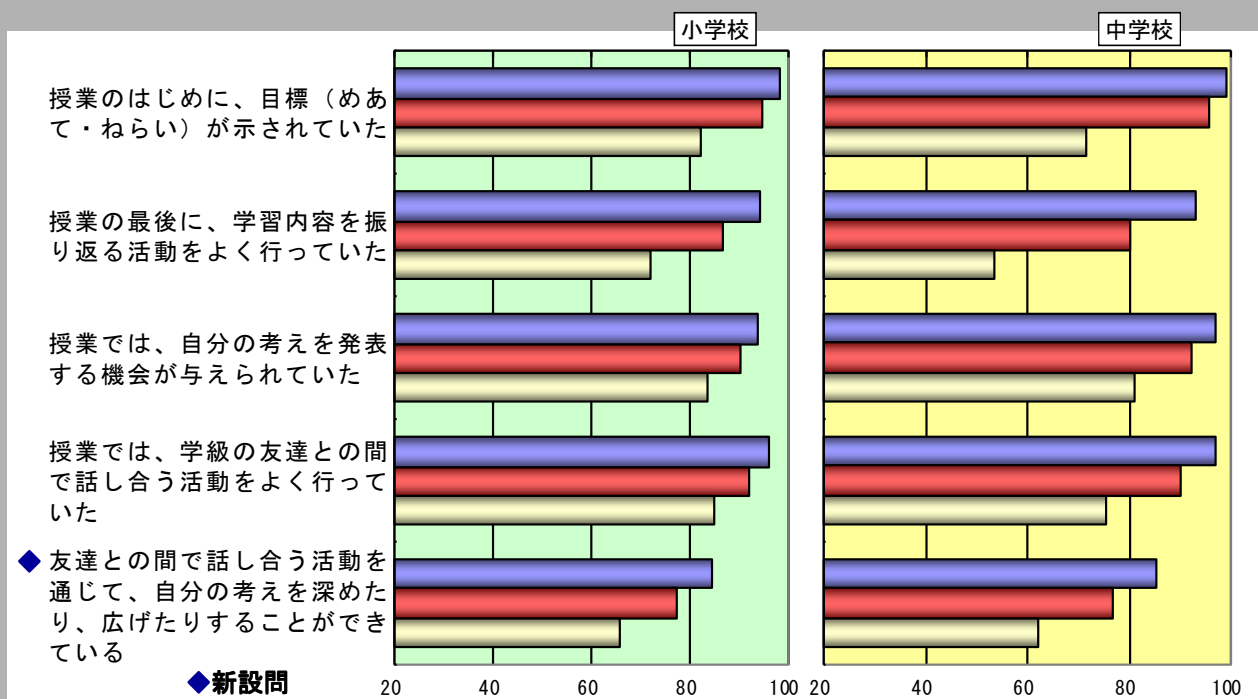
- 小・中学生共に、ほとんどの項目で全国や本県の平均を上回っており、児童生徒は概ね望ましい生活環境の中で、基本的な生活習慣及び学習習慣を確立し、意欲的に学習に取り組んでいる。
- 子ども主体の授業や達成感、自己有用感をもたせる機会と場の充実を図ることで、学ぶ意欲が生まれ、地域や異校種間との交流や連携を基盤とした体験活動等を通して、豊かな心が育まれている成果であると捉えている。

## 2 結果

### (1) 学習状況

#### 【資料3】「見通す・振り返る」活動と言語活動

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】児童生徒質問紙調査結果より



- 授業の中で、「目標が示されていた」「振り返る活動があった」と実感している児童生徒は、全国や本県を上回り、児童生徒の課題意識を大事にした学習の充実が図られている。
- 「考えを発表する機会が与えられていた」「話し合う活動をよく行った」と回答している児童生徒も全国や本県を上回り、言語活動の充実を図るとともに、子ども主体の学習が展開されている。さらに、「話し合う活動を通じて、考えを深めたり広げたりできている」という新設問についての肯定的な回答も全国や本県を上回り、活動の質が高まってきている。

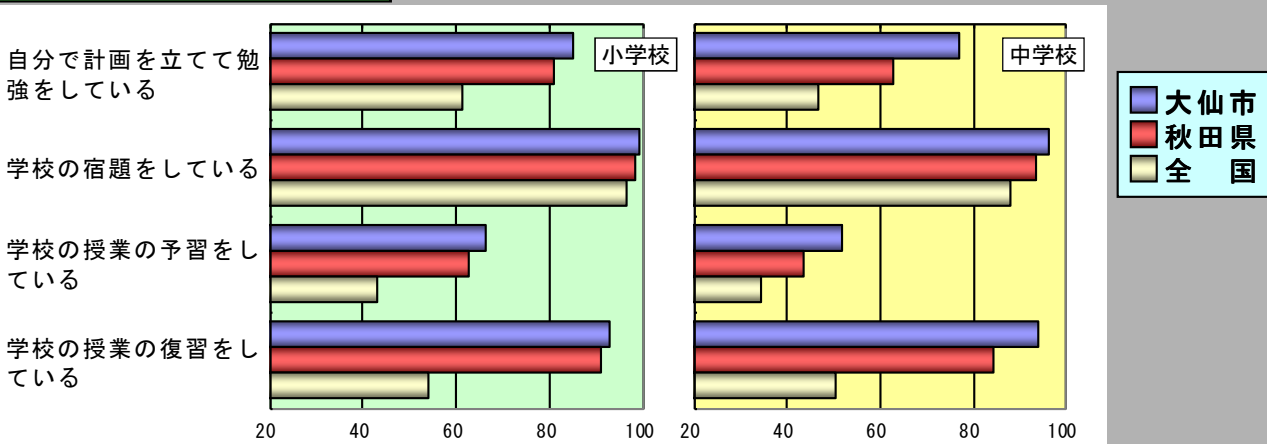


# IV 学習環境に関する調査の結果

## 2-(2) 学習習慣

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】児童生徒質問紙調査結果より

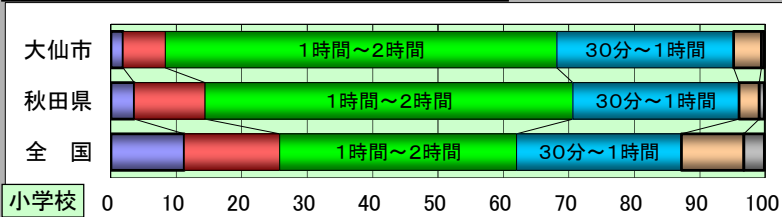
### 【資料4】家庭学習の様子



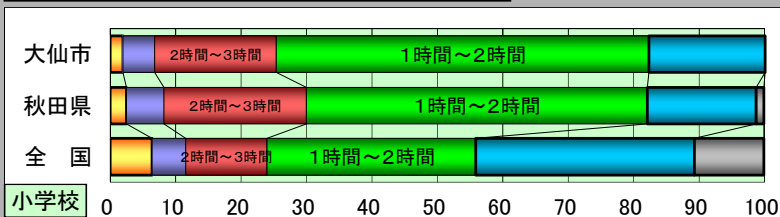
○小・中学生共に、自分で計画を立てて勉強したり、宿題や授業の予習、復習によく取り組んだりしており、自ら学ぶ姿勢が身に付いている。前年度に比べ、「予習をする」児童生徒が増えている。

○平日、休日とも学習時間「1～2時間未満」の割合が、小・中学生共に全国や本県より多く、「全く学習をしない」割合は全国や本県より少ない。ただし、「2時間以上」は、小・中学生共に全国や本県より少なく、毎日短時間で継続的に学習している様子がわかる。

### 【資料5-1】平日の学習時間

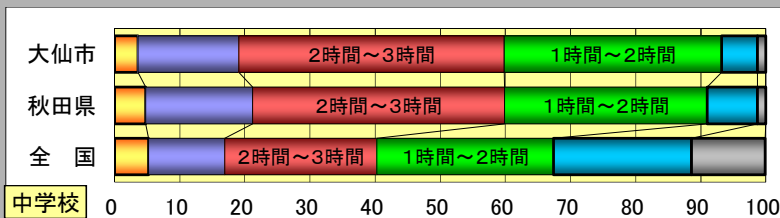
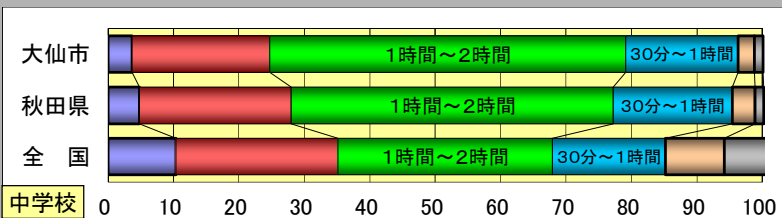


### 【資料5-2】休日の学習時間



### 【資料6】平均学習時間 【単位：分】

小学校	平日	休日
大仙市	110	130
秋田県	110	130
全国	110	110



中学校	平日	休日
大仙市	120	160
秋田県	120	170
全国	120	130

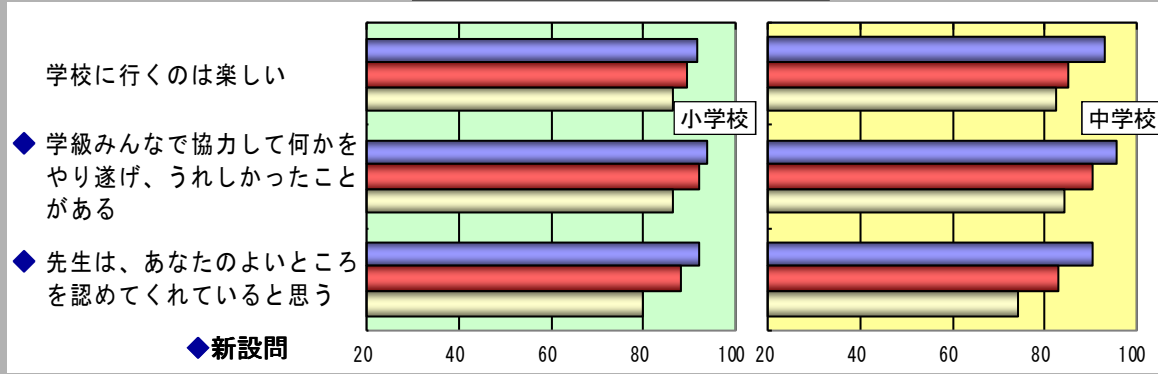
平日  
 3時間以上 (blue) 2~3時間 (red) 1~2時間 (green) 30分~1時間 (cyan) 30分未満 (orange) 全くしない (grey)  
 休日  
 4時間以上 (orange) 3~4時間 (blue) 2~3時間 (red) 1~2時間 (green) 1時間未満 (cyan) 全くしない (grey)

# IV 学習環境に関する調査の結果

## 2-(3) 学校生活

【資料7】学校生活の様子

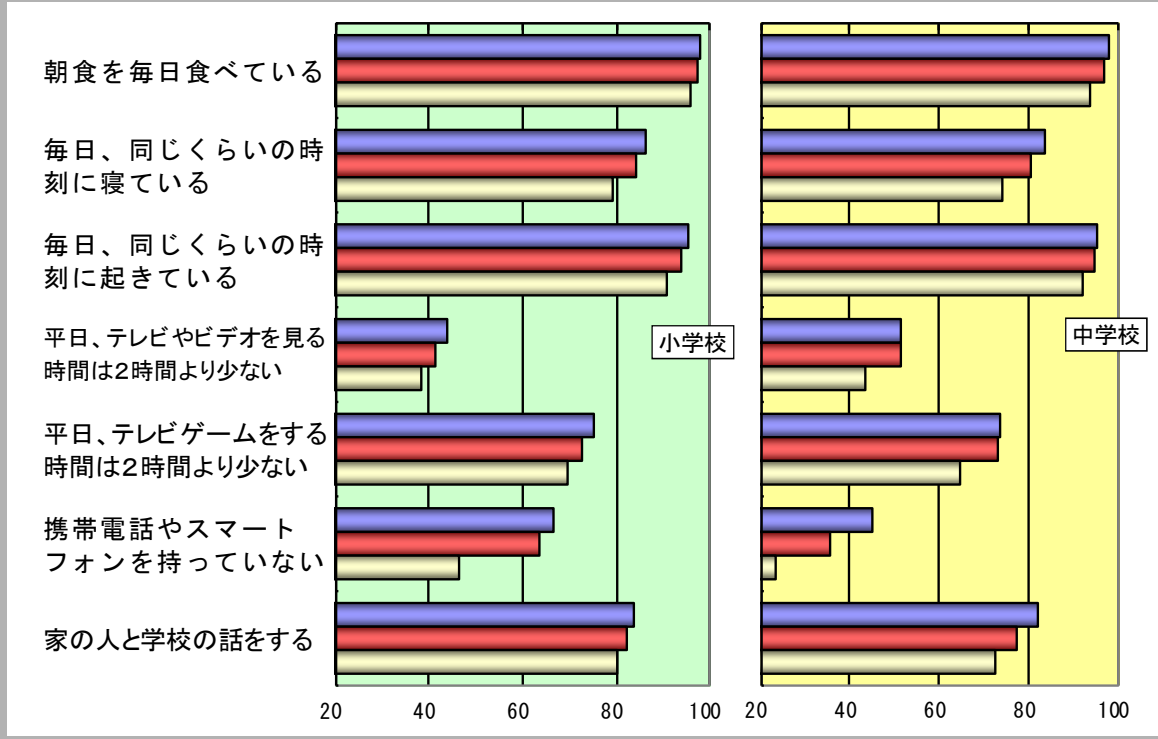
【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】児童生徒質問紙調査結果より



○小・中学生共に、全国や本県を上回っている項目がほとんどであり、児童生徒は楽しく充実した学校生活を送っていることがうかがえる。  
 ○「みんなで協力してやり遂げ、うれしかったことがある」「先生は、あなたのよいところを認めてくれている」という新設問についての肯定的な回答も、全国や本県を上回り、意欲的に学べる学習環境が構築されている。

## 2-(4) 生活習慣

【資料8】生活習慣の様子



■大仙市  
 ■秋田県  
 ■全国

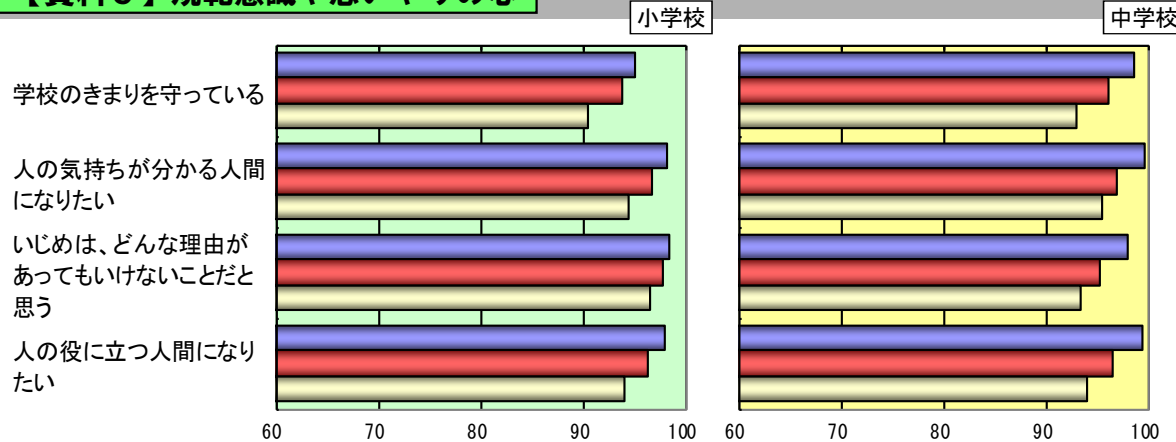
○小・中学生共に全国や本県を上回っている項目がほとんどであり、児童生徒は概ね良好な家庭環境の下に、基本的な生活習慣や生活規律が身に付いているものと言える。  
 ○「朝食を毎日食べる」が小・中学生共に前年度よりも改善されており、各学校と保護者との連携の成果であると思われる。

# IV 学習環境に関する調査の結果

## 2-(5) 規範意識

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】児童生徒質問紙調査結果より

### 【資料9】規範意識や思いやりの心



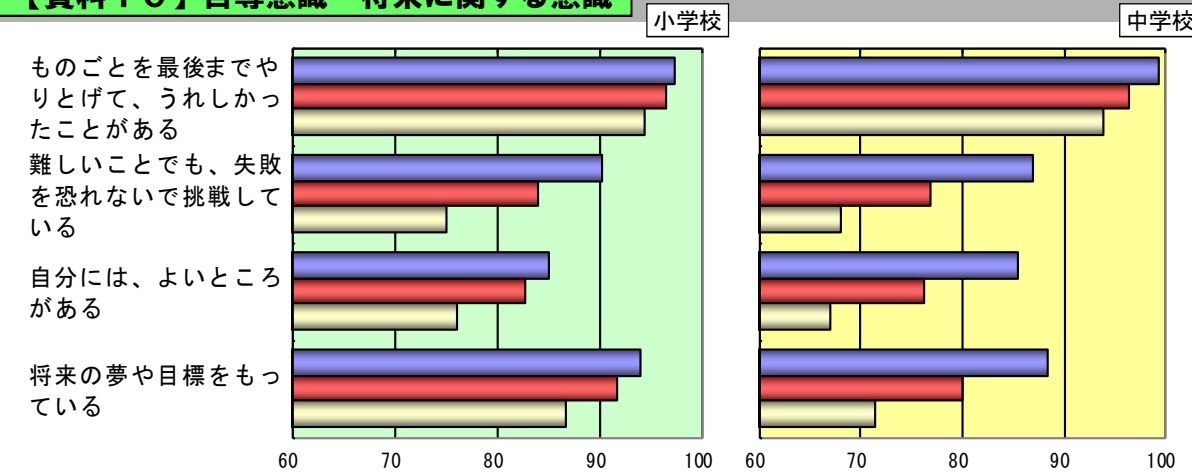
○学校のきまりをきちんと守り、いじめは許さないなど、規範意識が高い児童生徒の割合が多い。また、人の気持ちが分かり、役に立ちたいなどの思いやりの心も好ましい状況にある。

○中学生は3年前(小6時)の調査結果に比べ、規範意識に関する項目への肯定的な回答の割合が伸びている。

○好ましい家庭生活や地域の温かい関わりの下、各学校における適切な生徒指導や体験活動をはじめとする児童会、生徒会活動等の取組の成果であると捉えている。また、「中(小)学生サミット」によるいじめ撲滅等の取り組みも、成果に結びついていると思われる。

## 2-(6) 達成感や意欲

### 【資料10】自尊意識・将来に関する意識



○全国や県に比べ、多くの児童生徒が自己有用感や達成感、成就感をもち、目標をもって挑戦しようとする意欲が高いと言える。

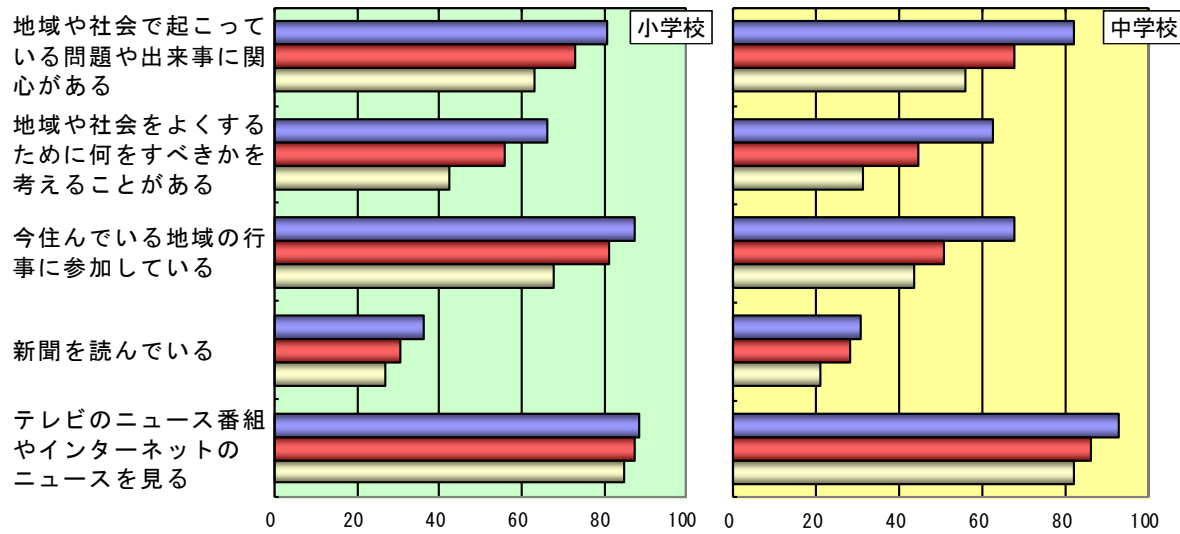
○各校における児童生徒主体の学習活動、体験活動やキャリア教育等の充実に向けた取組の成果であると捉えている。

# IV 学習環境に関する調査の結果

## 2 - (7) 地域への愛着

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】児童生徒質問紙調査結果より

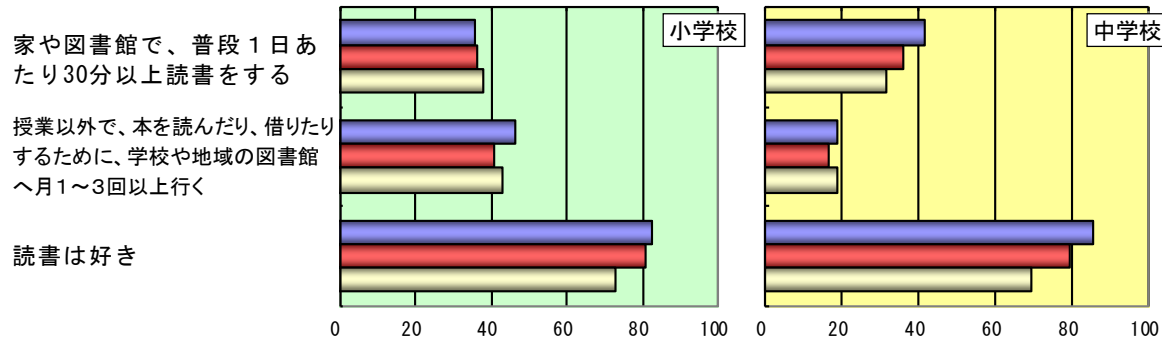
### 【資料11】地域や社会、人や行事などへのかかわり



- 小・中学生共に「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」「地域をよくするために何をすべきかを考えることがある」「地域行事に参加している」と回答している割合が国や県よりも高く、中学生が顕著である。
- 「新聞を読んでいる」「ニュースを見る」の肯定的な回答も国や県より高い。
- 中(小)学生サミットを通してエコ活動や被災地支援・交流活動等をさらに進めていくとともに、地域行事の担い手としての活動を通して、地域との関わりも深めていきたい。
- 協力的で温かい地域の教育力の一層の充実を期して、引き続き地域との連携による特色ある教育活動の推進と大仙市PTA連合会と一体となった取組を重視していきたい。

## 2 - (8) 読書習慣

### 【資料12】読書に関する状況



- 小学生の読書時間が国や県平均を下回っているが、前年度に比べると改善されている。
- 中学生の読書時間と読書が好きであると答えた割合は、国や県を上回っており前年度よりも増えている。
- 学校質問紙調査の結果によると、小・中学校共に、「一斉読書の時間を、週に複数回設定している」が100%である。
- 市では「大仙っ子読書の日」を制定したり「ふるさと納税文庫」を設置したりするなど、読書活動推進計画をさらに充実させるとともに、学校と地域の図書館との連携を図っていきたい。

# V 学習環境と学力調査との相関

1 概要 ○教科の正答率と相関がみられた児童生徒質問紙の質問項目において、本市の状況は概ね良好である。

児童生徒質問紙において、質問紙の結果と4科目の平均正答率との間に相関がみられた主な項目

## 【生活習慣等】

◎は相関が強い項目 ( )は相関が顕著な校種

### 〈相関がみられた主な項目〉

- ◎毎日朝食を食べている。 ○毎日同じくらいの時刻に寝ている。 ○毎日同じくらいの時刻に起きている。
- 家の人と学校での出来事について話している。 ○普段1日のゲーム時間が1時間未満である。
- ◎ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある。(中学校) ○難しいことでも失敗を恐れないで挑戦している。
- 自分にはよいところがある。 ○学校のきまりを守っている。 ○学校に行くのは楽しい。
- 先生はよいところを認めてくれている。 ○人の役に立つ人間になりたい。

## 【学習習慣等】

### 〈相関がみられた主な項目〉

- 自分で計画を立てて勉強している。 ○学校の宿題をしている。 ◎学校の授業の復習をしている。
- 読書が好きである。 ○地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。 ○テレビやインターネットのニュースを見る。

## 【調査問題への取り組み】

### 〈相関がみられた主な項目〉

- ◎国語で解答を文章で書く問題に最後まで書こうと努力した。
- ◎算数・数学で言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く(説明する)問題に最後まで書こうと努力した。

## 【授業への取り組み】

### 〈相関がみられた主な項目〉

- 授業で自分の考えを発表する機会が与えられている。(中学校) ○原稿用紙2、3枚の文を書くのは難しい。
- 普段の授業で生徒の間で話し合う活動をよく行っている。(中学校) ○自分の考えを他の人に説明したり文章に書くことは難しい。
- 授業のはじめに目標が示されている。(中学校) ○話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりできている。
- ◎国語の授業で目的に応じて資料を読み、考えを話したり書いたりしている。 ◎国語の授業で考えの理由が分かるように書いている。
- ◎算数・数学の授業の内容がよく分かる。 ○算数・数学の解き方が分からないとき諦めずにいろいろな方法を考える。(中学校)
- ◎公式やきまりを習うときその理由を理解しようとしている。 ○算数・数学でもっと簡単に解く方法がないか考える。

# V 学習環境と学力調査との相関

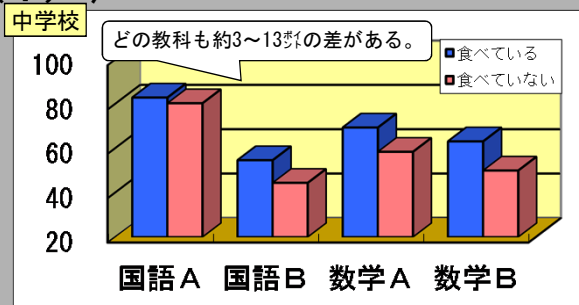
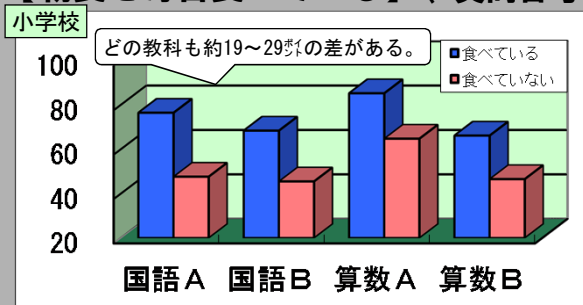
## 2 相関

### 2 - (1) 家庭での生活

【（あてはまる+どちらかといえばあてはまる）と（あまりあてはまらない+全くあてはまらない）の比較】

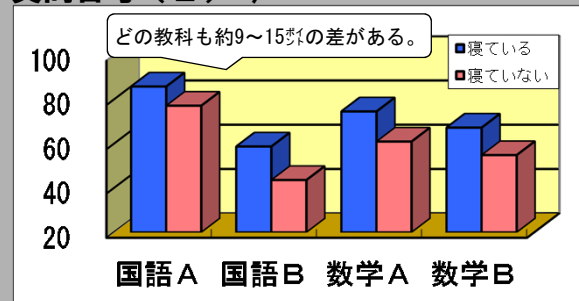
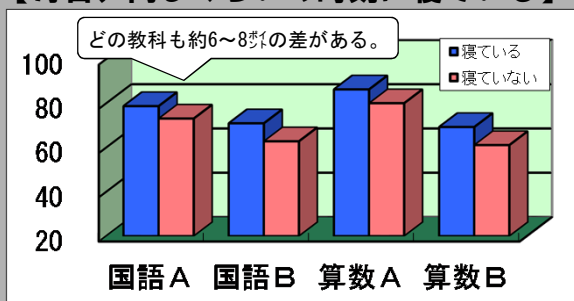
【資料13】

#### 【朝食を毎日食べている】〈質問番号(1)〉



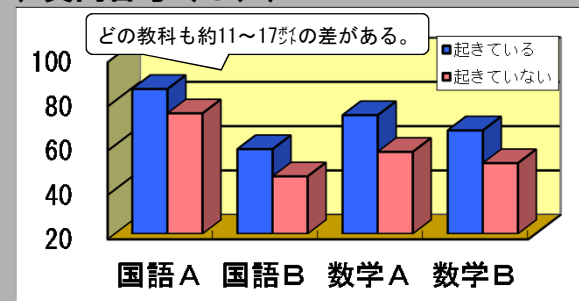
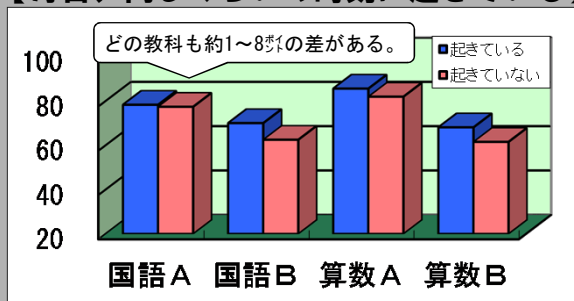
○朝食を毎日食べていますかという質問に、「食べている」「どちらかといえば食べている」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高く、小学生の方が相関が顕著である。

#### 【毎日、同じくらいの時刻に寝ている】〈質問番号(2)〉



○毎日、同じくらいの時刻に寝ていますかという質問に、「寝ている」「どちらかといえば寝ている」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高く、中学生の方が相関が顕著である。

#### 【毎日、同じくらいの時刻に起きている】〈質問番号(3)〉



○毎日、同じくらいの時刻に起きているかという質問に、「起きている」「どちらかといえば起きている」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高く、中学生の方が相関が顕著である。

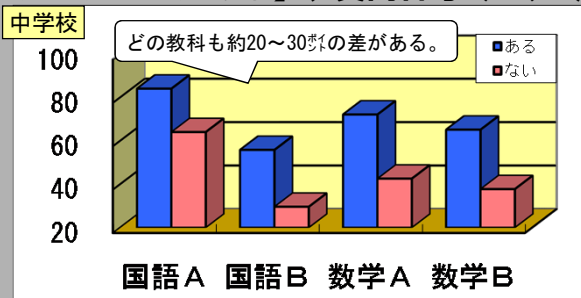
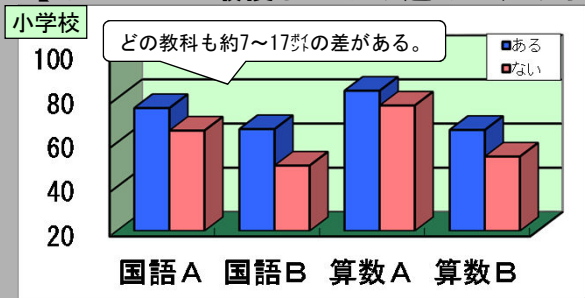
# V 学習環境と学力調査との相関

## 2 - (2) 意欲、規範意識等

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる) と (あまりあてはまらない+全くあてはまらない) の比較】

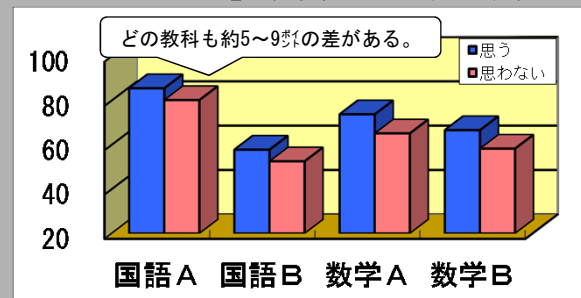
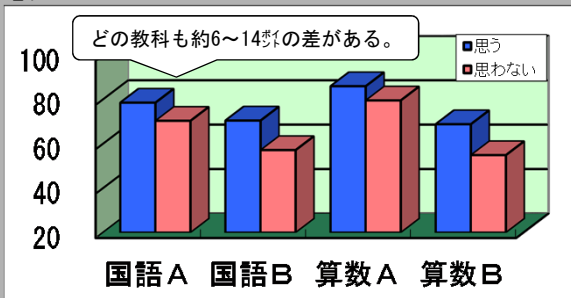
### 【ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある】〈質問番号(4)〉

【資料14】



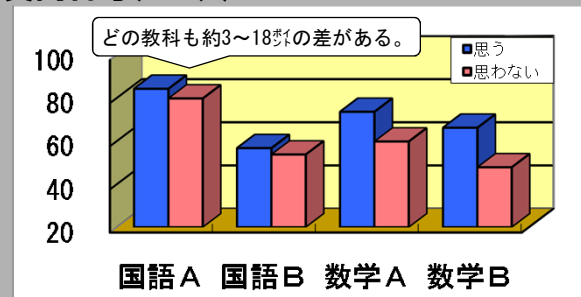
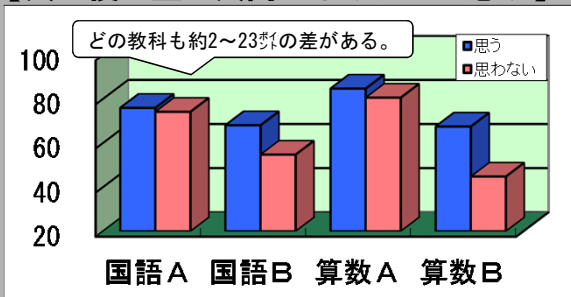
○ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますかという質問に、「ある」「どちらかといえばある」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高く、特に中学生で相関が顕著である。

### 【先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う】〈質問番号(28)〉



○先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますかという質問に、「思う」「どちらかといえば思う」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

### 【人の役に立つ人間になりたいと思う】〈質問番号(38)〉



○人の役に立つ人間になりたいと思いますかという質問に、「思う」「どちらかといえば思う」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。特に、小学生で国語と算数のB問題、中学生で数学のA、B問題で相関が顕著である。

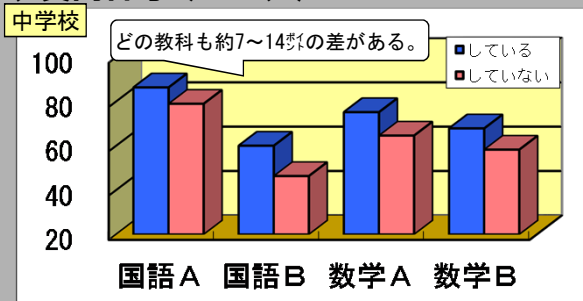
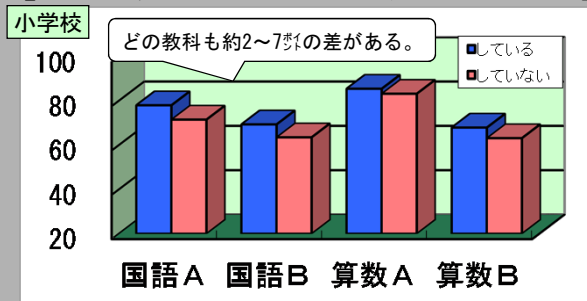
# V 学習環境と学力調査との相関

## 2 - (3) 家庭学習の習慣

【（あてはまる+どちらかといえばあてはまる）と（あまりあてはまらない+全くあてはまらない）の比較】

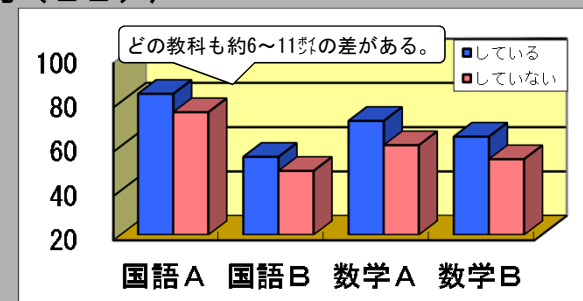
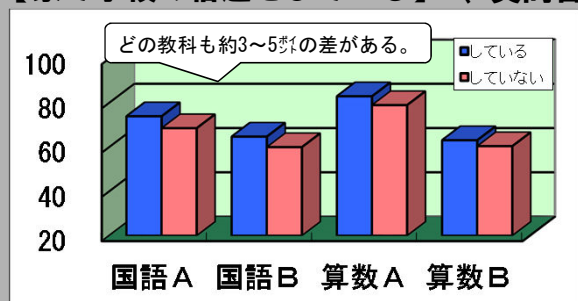
【資料15】

### 【家で自分で計画をたてて勉強している】〈質問番号(21)〉



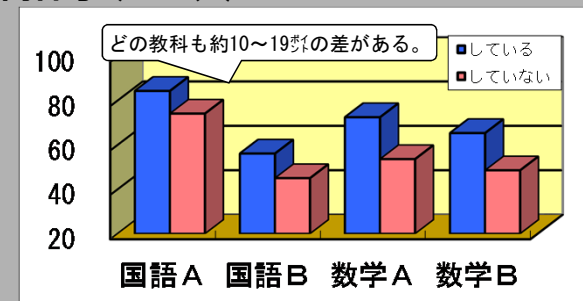
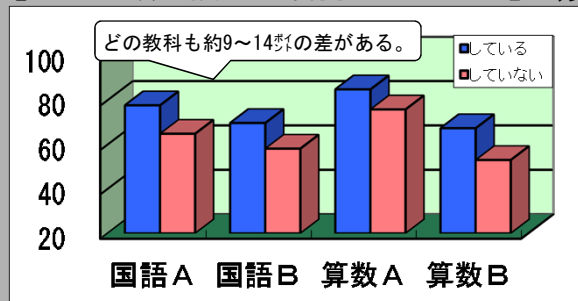
○家で自分で計画を立てて勉強をしていますかという質問に、「している」「どちらかといえばしている」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

### 【家で学校の宿題をしている】〈質問番号(22)〉



○家で学校の宿題をしていますかという質問に、「している」「どちらかといえばしている」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

### 【家で学校の授業の復習をしている】〈質問番号(24)〉



○家で学校の授業の復習をしていますかという質問に、「している」「どちらかといえばしている」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。特に、中学生の数学で相関が顕著である。



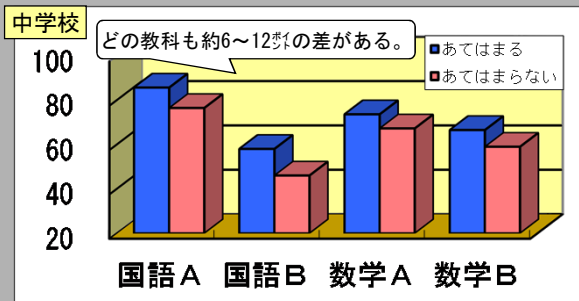
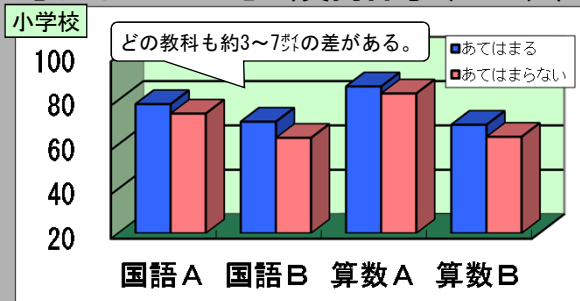
# V 学習環境と学力調査との相関

## 2 - (4) 読書習慣、地域社会への関心

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)と(あまりあてはまらない+全くあてはまらない)の比較】

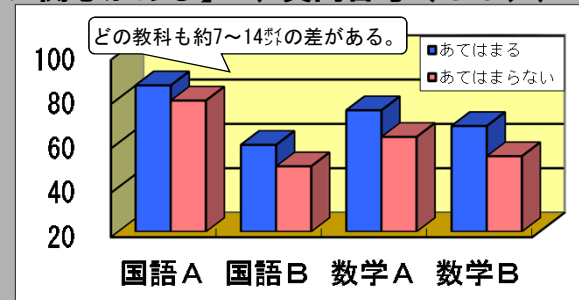
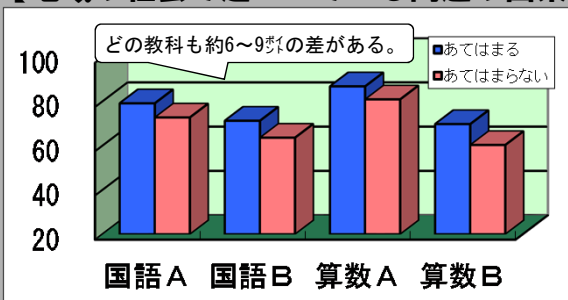
### 【読書は好きだ】〈質問番号(53)〉

【資料16】



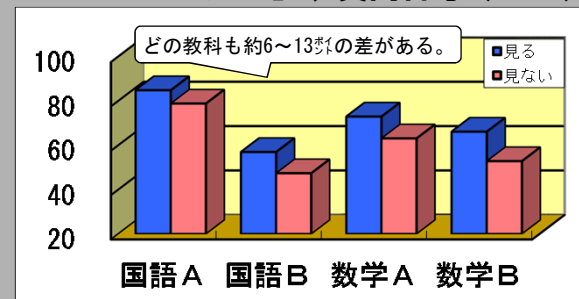
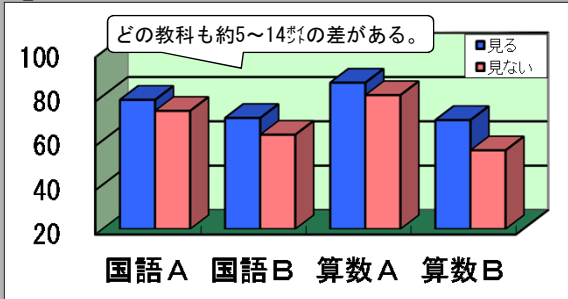
○**読書は好きですか**という質問に「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。特に、小・中共に国語のB問題で相関が顕著である。

### 【地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある】〈質問番号(30)〉



○**地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか**という質問に、「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。特に、小・中共にB問題で相関が顕著である。

### 【テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る】〈質問番号(33)〉



○**テレビ番組のニュースやインターネットのニュースを見ますか**という質問に、「よく見る」「時々見る」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。特に、小・中共にB問題で相関が顕著である。

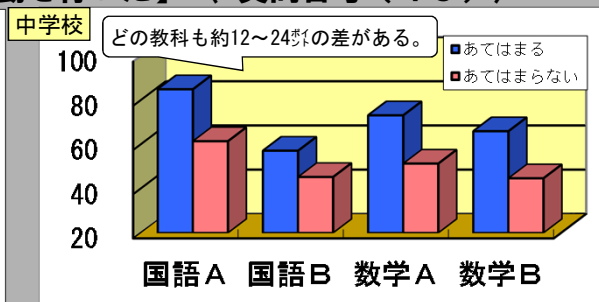
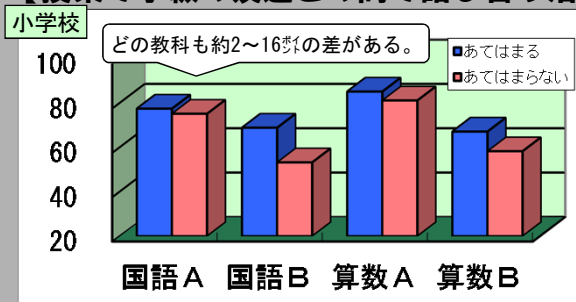
# V 学習環境と学力調査との相関

## 2 - (5) 授業への取り組み

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)と(あまりあてはまらない+全くあてはまらない)の比較】

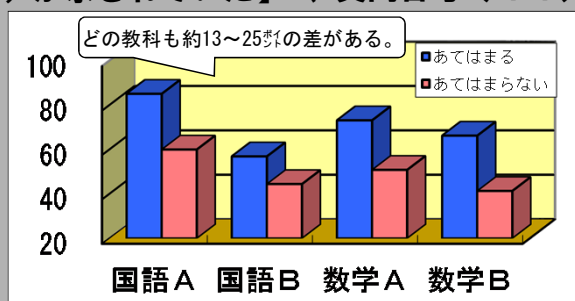
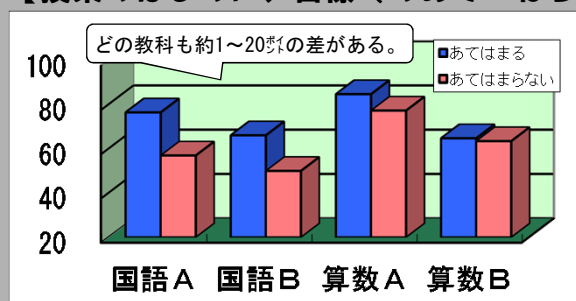
### 【授業で学級の友達との間で話し合う活動を行った】〈質問番号(43)〉

【資料17】



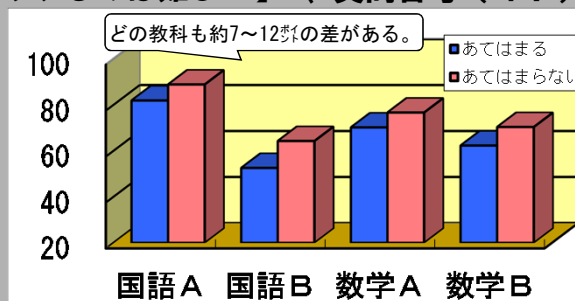
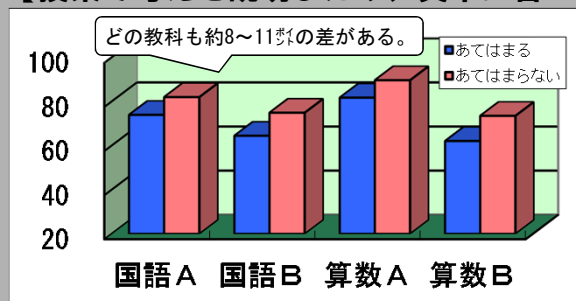
○授業で学級の友達との間で話し合う活動を行いましたかという質問に、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した児童生徒のグループの方がどの教科においても平均正答率が高く、中学生の相関が顕著である。

### 【授業のはじめに、目標(めあて・ねらい)が示されていた】〈質問番号(44)〉



○授業のはじめに目標が示されていたかという質問に、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。特に、中学生の相関が顕著である。

### 【授業で考えを説明したり、文章に書いたりするのは難しい】〈質問番号(47)〉



○授業で自分の考えを説明したり、文章に書いたりするのは難しいですかという質問に、「あてはまらない」「どちらかといえばあてはまらない」と回答した児童生徒のグループの方が、どの教科においても平均正答率が高い。

# VI 学校質問紙調査の結果

## 1 概要

- 学習指導については、児童生徒を主体とした学習展開、補充的な学習サポート、活用に関わる指導、全国学力・学習状況調査を活用した指導等に関して、小・中学校共に全国及び本県の平均を上回っている質問項目が多く、概ね好ましい取組状況にあると捉えている。
- 読書、学び方、生き方等に関わる指導、保護者との連携等に関しても、小・中学校共に全国及び本県の平均を上回っている質問項目が多く、各学校は積極的に取り組んでいると捉えている。

## 2 結果

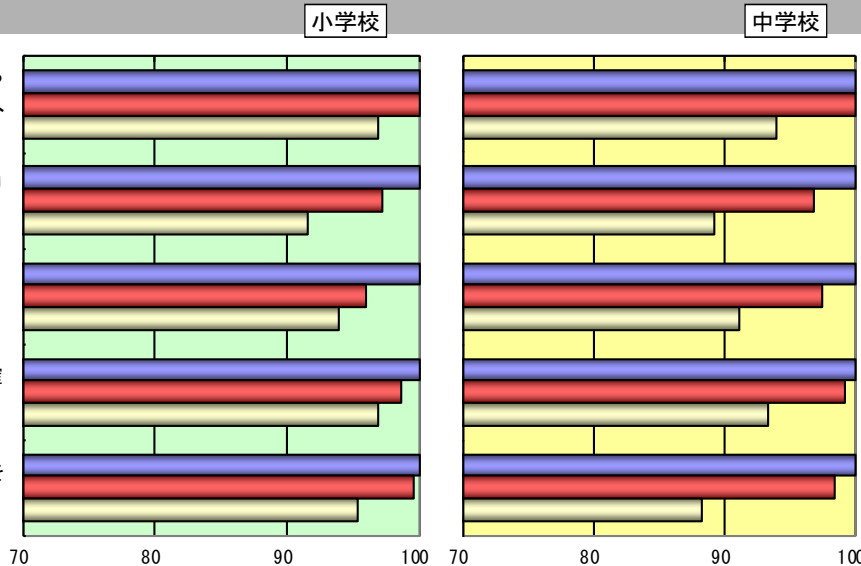
### (1) 学習指導－1

※H25年度の状況について回答するもの

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】学校質問紙調査結果より

#### 子ども主体の学習

- 授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れた
- 授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れた
- 児童生徒の考えを引き出したり、深めたりする発問や指導をした
- 児童生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めた
- 学級やグループで話し合う活動を授業などで行った

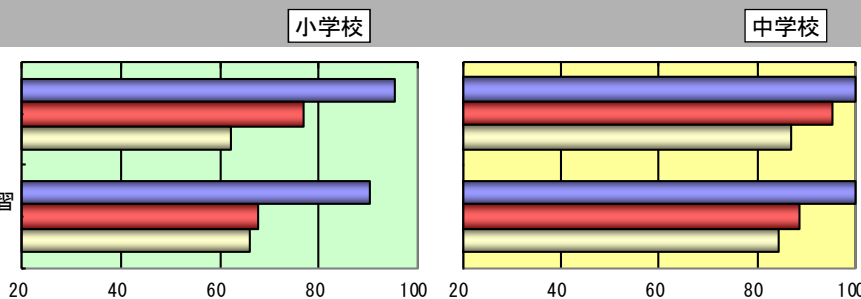


【資料18】

- 子ども主体の授業については、小・中学校共に、ほとんどの質問項目で肯定的な回答が100%であり、各学校の意識の高さが伺える。特に、中学校で「話し合う活動を授業などで行っている」割合が増えている。
- 「見通す・振り返る活動」については、小・中学校共に、「よく行っている」割合が増えている。
- 児童生徒質問紙からは、ほとんどの児童生徒が、子ども主体の学習指導が展開されていることを実感していることが伺える。

#### 補充的な学習サポート

- 放課後を利用した補充的な学習サポートを実施した
- 長期休業日を利用した補充的な学習サポートを実施した



- 各学校では、全国や県に比べて補充的な学習サポートを実施している割合が高く、特に中学校では全ての学校が実施しており、個に応じたきめ細かな指導が展開されている。

# Ⅵ 学校質問紙調査の結果

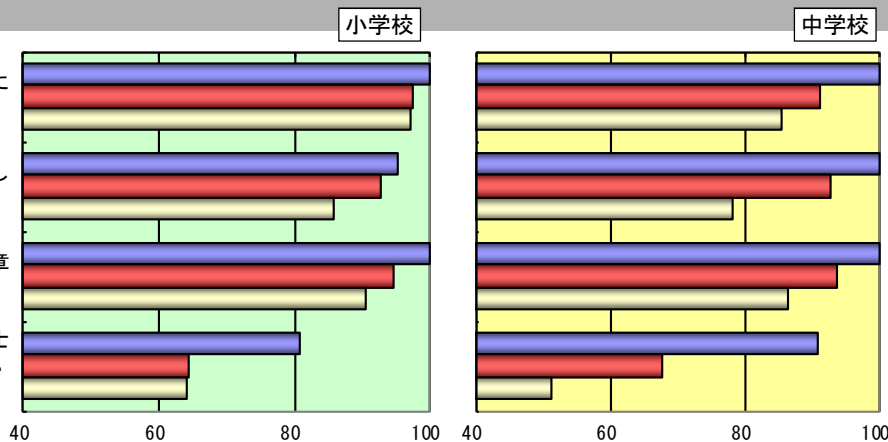
## (1) 学習指導－2

※H25年度の状況について回答するもの

### 活用にかかわる指導

【資料19】

- 学校図書館を活用した授業を計画的に行った
- 資料を使って発表ができるよう指導した
- 自分で調べたことや考えたことを文章に書かせる指導をした
- コンピュータ等を活用して、子供同士が教え合い学び合う学習や課題発見・解決型の学習指導を行った



- 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育むことに、小・中学校共に意欲的である。子ども主体の学習指導の展開との相乗効果がB問題の成果に表れているものと思われる。
- 中学校の図書館活用と資料活用、小学校の書かせる指導については、前年度から改善が見られる。
- コンピュータを活用した、学び合いや課題解決学習については、小・中学校共に国や県を大きく上回り、前年度からの伸びも大きい。

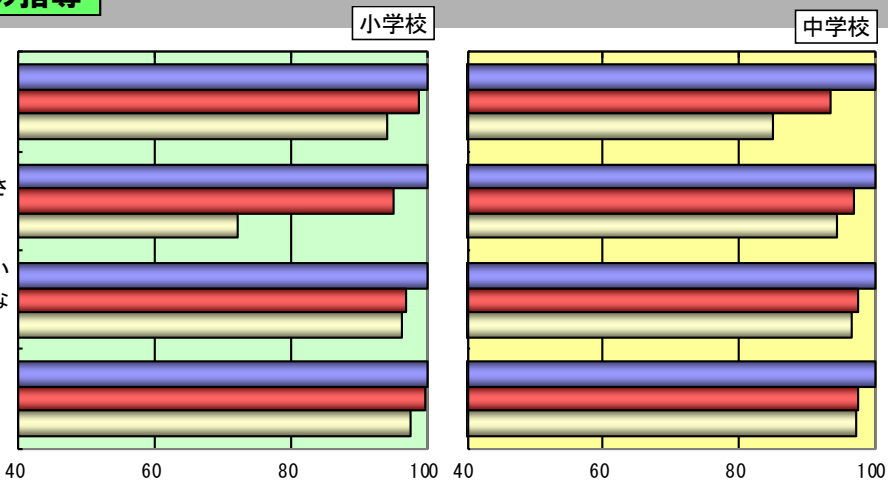
## (2) 読書、学び方、生き方等指導

【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】学校質問紙調査結果より

### 読書、学び方、生き方等の指導

【資料20】

- 一斉読書の時間を設けた
- 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした
- 学習規律（話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をするなど）の維持を徹底した
- 学習方法（適切にノートをとるなど）に関する指導をした



- 読書、生き方、学び方等の指導については、小・中学校共に意識が高い。
- 生き方指導については、小・中学校共に前年度を上回っており、特に小学校の伸びが大きく、キャリア教育の成果がうかがえる。
- 各学校では、学力向上の土台となる学習規律や学習方法に関する指導が充実している。

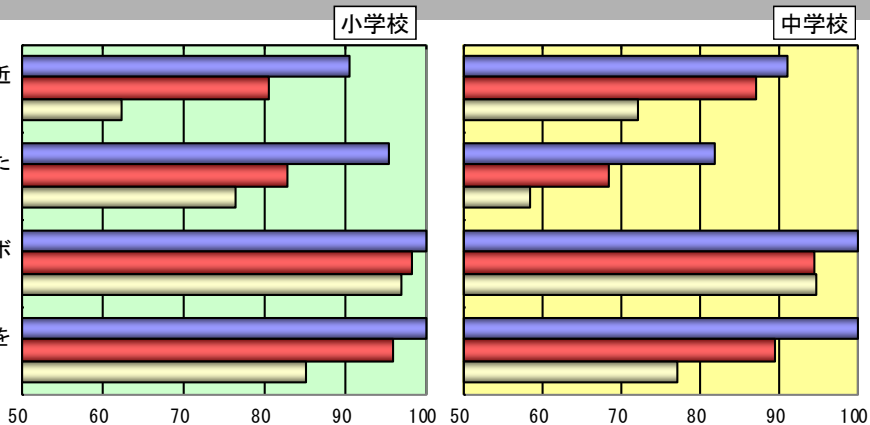
# VI 学校質問紙調査の結果

## (3) 交流と連携

※H25年度の状況について回答するもの

### 保護者や地域との連携

- 教科の指導内容や指導方法について近隣の小・中学校と連携を行った
- 地域の人材を外部講師として招聘した授業を行った
- P.T.Aや地域の人が学校の諸活動にボランティアとして参加してくれた
- 昨年度の調査結果等を踏まえた取組を保護者等に働きかけた



### 【資料21】

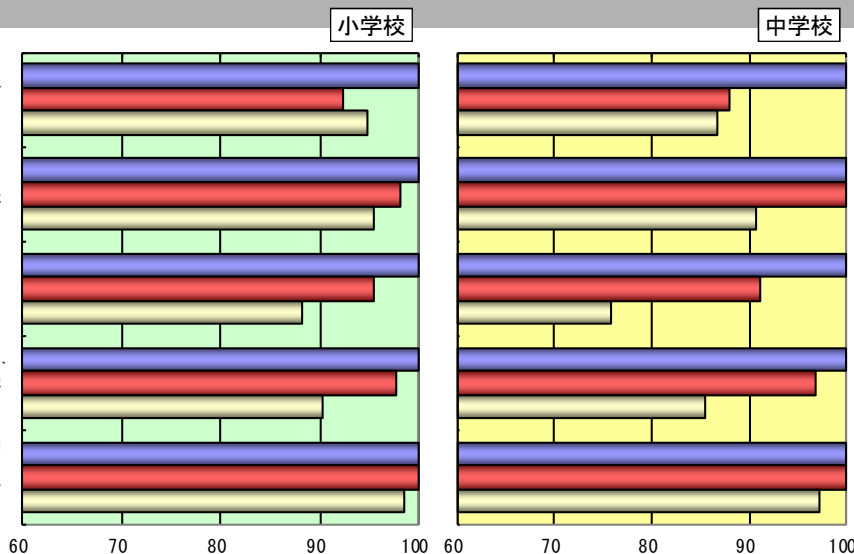
- 各学校の取組は、ほとんどの項目で全国や県を上回っており、市教委が重点としている交流と連携を通して「複数の目で子どもを育てること」に対する積極的な取組姿勢が表れている。
- 小・中学校の円滑な接続を図るため、9年間を見通した学習指導の充実について、さらに各中学校区での連携を充実させていきたい。
- 保護者や地域からの信頼と協力があって、児童生徒の安定した学習環境が構築されていることを再確認したい。

## (4) 学校の研修体制

### 研修体制

- 模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行った
- 教職員は、校外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させた
- ◆学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりした
- ◆言語活動について、国語科だけではなく、各教科の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んだ
- 学校の教育目標やその達成に向けた方策について、全教職員の間で共有し、取組にあてた

◆新設問



【(あてはまる+どちらかといえばあてはまる)の市・県・全国の比較】学校質問紙調査結果より

### 【資料22】

- 各学校の取組は、全国や県を上回っており、研修に関するほとんどの質問項目で、肯定的な回答が100%である。「言語活動について学校全体で取り組んだ」という新設問についての肯定的な回答も全国や本県を上回り、教科の枠を超えた組織的な研修体制が確立されてきた。
- 調査の結果や研修の成果を授業改善に活用しようとする前向きな取組が、児童生徒の学力の維持につながっていると捉えている。